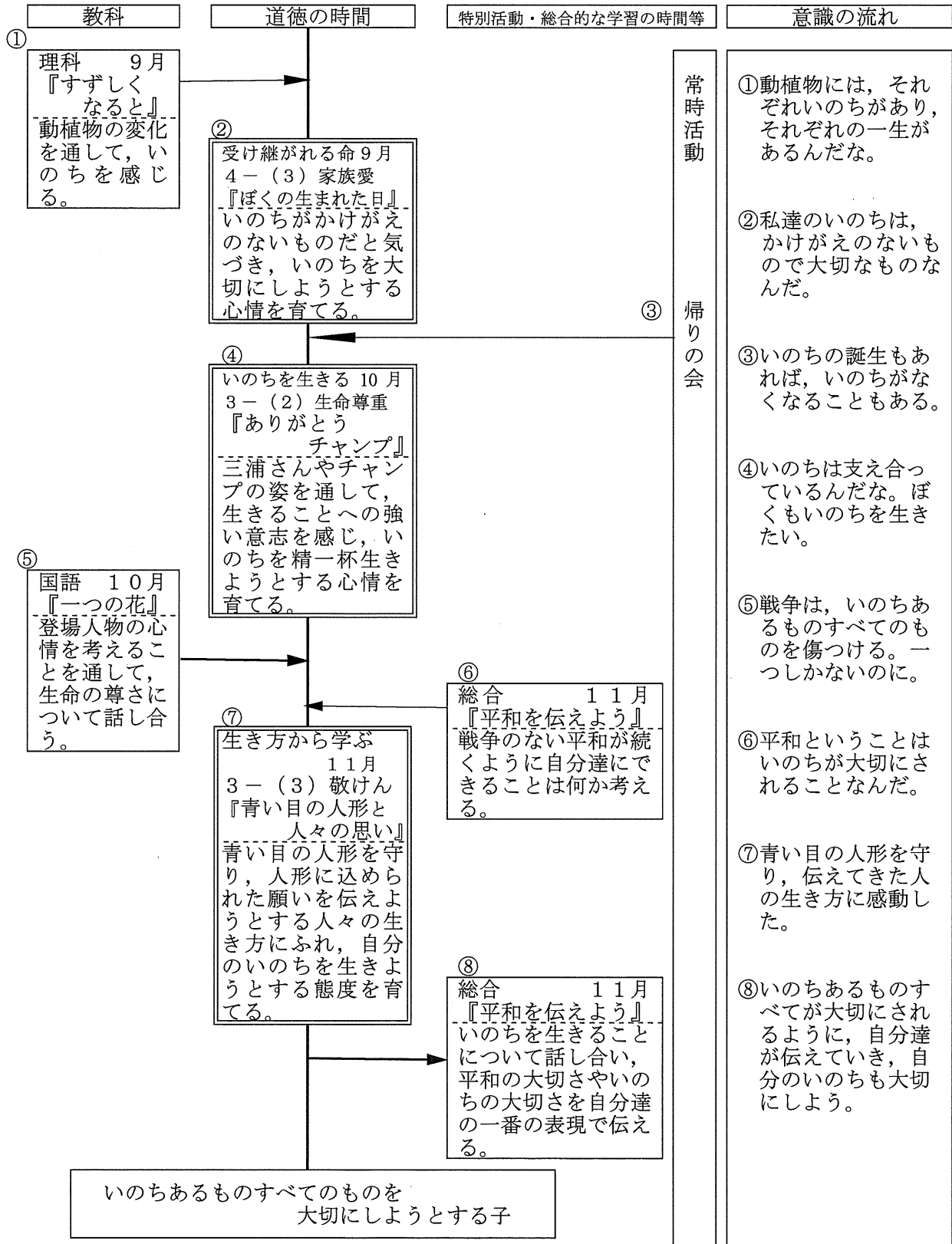


プログラム名	いのちを感じよう		9月～11月
めざす子ども	いのちあるものすべてのものを大切にしようとする子	中心項目 3-(2) 生命尊重	関連項目 3-(3) 敬けん 4-(3) 家族愛
ねらい		動植物のいのちや人間の生き方にふれいのちを大切に生きようとする態度を育てる。	
プログラム設定の理由 子どもたちは、学級で育てている植物の生長や金魚が元気に餌を食べる姿にいのちを感じている。しかし、自分自身のいのちを大切に生きるということを実感できていない。いのちは自分だけのものではなく様々な人に支えられていることや支え合っていることを知り、いのちあるものすべてのものを大切に、自分のいのちを精一杯生きようとする態度を育てようと考え、本プログラムを設定した。			



授業展開例

- 1 主題名 いのちを生きる 3-(2) 生命尊重
- 2 ねらい 三浦さんやチャンプの姿を通して、生きることへの強い意志を感じ、いのちを精一杯生きていこうとする心情を育てる。
- 3 資料名 「ありがとう チャンプ」 〈文溪堂〉
- 4 授業の展開例

	学習活動	主な発問 (○) と児童の心の動き (・)	留意点
導入	1 犬の車いすを見る。	○これは何でしょう。 ・何かを引っ張るもの。 ・何かの車いす。	・犬の車いすを提示し、資料への興味づけをする。
展	2 資料「ありがとう チャンプ」を読んで、話し合う。	○「安楽死させますか」と言われて、だまりこんでしまった三浦さんは、どんなことを考えていたでしょう。 ・どうしよう。 ・かわいそう、つらいだろう。 ・一生歩けないなら、生きていても・・・ ・助けたい。 ○ストレスでぼろぼろになったチャンプを三浦さんは、どんな気持ちで毎日チャンプの世話をしていたでしょう。 ・悲しい。 ・代わってあげたい。 ・歩けるようになるまで頑張れ。 ・治ってほしい。 ・ぜったい歩けようにするよ。 ・生きてほしい。  ◎涙を流しながら、キャバとチャンプを抱きしめた三浦さんは、どんなことを考えていたでしょう。 【三浦さん】 ・キャバが助かった、ありがとう。 ・うれしいよ。 ・今まで頑張ってよかった。 ・生きることを選んでよかった。 ・チャンプは生きている。  【チャンプ】 ・助かって、よかった。 ・声が出た。 ・三浦さんありがとう。 ・まだまだ生きるぞ。	・このままで生き続けるより死を選んだ方がよいのではと揺れ動く三浦さんの気持ちを捉えさせる。  ・苦しんでいるチャンプの姿を見て、何とかしてやりたいと願う三浦さんの気持ちに共感させる。 ・朝晩4回の排便、600回の曲げ伸ばしを毎日続けた三浦さんの行動に着目させ、「生きてほしい」「歩いてほしい」という気持ちを捉えさせる。  ・チャンプの声が戻ったことに着目させ、チャンプのキャバを思う強い気持ちや命を守ろうとした力を捉えさせる。 ・チャンプの生きる力から、安楽死でなく「生きる」道を選んだことへの三浦さんの喜びを感じさせる。 ・板書を活用してチャンプも三浦さんも自分のいのちと他のいのちを両者を大切にしていることに気づかせる。 ・三浦さんやチャンプから学んだことをもとに自分のいのちについて重ねて考えさせる。
開	3 自分の生活を振り返る。	○三浦さんやチャンプから何を学びましたか。 ・動物の命を最後まで大切にする。 ・動物の命も人間の命も大切。 ・一つの命を一生懸命生きることの素晴らしさ。 ・僕はソフトを一生懸命することで生きていく。	
終末	4 チャンプと三浦さんのその後を知る。	○チャンプは15年間のいのちを一生懸命生き抜いた。そして、三浦さんもチャンプのいのちを支え抜いた。いのちを生きるってすてきだね。	・チャンプが15年間の精一杯生きたことを映像で知らせ、「生きる」ことについて考えさせる。